

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 30 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	安田 圭子	会員番号	0033425
申請者の所属・職名	大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科		
出席会議名	6 th Annual Meeting of the International Cytokine & Interferon (ICIS)		
発表論文タイトル	Satb1-Mediated Regulation of GM-CSF And PD-1 in Pathogenic Th17 Cells		

実施結果:この度は、平成30年度(後期)Tadimitsu Kishimoto International Travel Awardをいただき、有難うございました。岸本忠三先生、選考いただいた先生方、そして推薦していただいた廣田先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

今回、私は2018年10月28日から10月30日まで、米国ボストンで行われた Annual Meeting of the International Cytokine & Interferon に参加し、上記の演題でポスター発表を行って参りました。博士課程の学位の仕事として、坂口志文先生、廣田圭司先生のご指導のもとに行った研究で、Th17細胞の分化および機能(病原性)における Satb1 の役割について解析を行いました。ポスターセッションでは、ブースに来た研究者の方々にはできる限りしっかりと説明しよう、と心がけ十分な質疑応答ができたことが大変有意義でした。以前にアメリカ腎臓学会で口頭発表をした際に、全くもって十分な質疑応答ができず、大変悔しく悲しい思いをしましたので、まだまだ改善しないといけないものの、今回このような機会を与えられたことに大変感謝致しております。また、学会が Th サブセットとサイトカインをメインとした構成になっており、自分の研究テーマとして焦点をあてていた病原性 Th17 細胞についてのセッションもありました。特に Th17 細胞に関しては、マイルストーンとなるような論文の著者の先生方の講演を聞くことができ、最新のトピックまでを盛り込んだ内容となっていました。講演に加えて活発な質疑応答があり、わかりづらく感じていた点についても理解を深めることができました。

また、学会終了後に、ハーバード大学 ダナ・ファーバー癌研究所に留学中の先生に研究所を案内していただきました。近隣に Joslin Diabetes Center、Beth Israel Deaconess Medical Center や Brigham and Women's hospital もあり、学術、病院に特化したエリアとなっていました。臨床の教科書や雑誌で幾度となく目にしている施設の数々に感動しました。留学中の先生に自分の研究をみていただくとともに、留学先で着々と結果を残されているお話を伺い、感慨深く思いました。

この度は、貴重な経験の機会を与えていただき誠に有難うございました。今回の受賞を励みとし、また学会への参加、研究所見学で得られた経験と感じたことを糧に、免疫学研究の発展に微力でも貢献できるよう、また次のステップとして腎臓内科学の発展に貢献できるよう努めてまいります。